

周南公立大学におけるピアサポートセンターの現状と課題 —2024 年度の活動報告を通じて—

山本 晋也・西村 浩子
(YAMAMOTO Shinya, NISHIMURA Hiroko)

要旨

本稿は、本学の学生支援を担う一組織である「ピアサポートセンター」に関して、学内外での理解と関心を更に深めるべく、2024 年度の活動内容と今後の課題について報告するものである。大学における学生支援に関しては、2023 年 9 月～10 月に実施された日本学生支援機構の調査結果において、全国でおよそ半数の大学がピアサポート制度を採用していることが明らかにされている。また、一言に「ピアサポート」といっても、その支援領域や報酬の有無等において、様々な形態があることが示唆された。本学のピアサポートセンターは、有志の学生スタッフを中心に学生同士の学び合いや交流の場となることを目指したものであるが、教職員との連携を含めて様々なイベントを企画・実施するなど、活動の柔軟性が高い点が特徴として挙げられる。一方、学生支援組織としての更なる充実を考える上では、センター利用者数の拡大とピアサポーターの養成という 2 点が課題として挙げられた。

キーワード: 大学の学生支援 ピアサポート 学び合いと交流の場 イベント企画

1. はじめに

近年、大学生活において学生が直面する課題が複雑化する中で、大学の学生支援には学業面でのサポートにとどまらず、精神的支援やキャリア形成等を含む包括的な支援体制の構築が求められている。その一環として、学生同士の相互支援体制、いわゆる「ピアサポート」制度を取り入れている大学は数多い。

日本学生支援機構は、大学におけるピアサポート¹を「学生生活上で支援(援助)を必要としている学生に対し、仲間である学生同士で気軽に相談に応じ、手助けを行う制度」(日本学生支援機構 2009)と定義している。周南公立大学²(以下、「本学」と併記)では、2020 年 10 月に、本学の学生支援を担う一組織として「ピアサポートセンター」(以下、「センター」と併記)を開設し、これまで約 4 年半にわたって学生相互の学び合いと多様な交流の促進を進めてきた。本稿は、その経緯と活動について記述すると共に、現状の分析を踏まえてセンターの抱える今後の課題を明らかにすることを目指すものである。

本稿の構成は、以下の通りである。まず 2 章では、大学の学生支援の取り組みに関する調査結果をもとに、全国の大学におけるピアサポート制度の導入とその特徴

について概観する。そして、3 章にて本学におけるピアサポートセンターの概要と特徴についてまとめた上で、2024 年度の活動について報告する。以上をもとに、本学のピアサポートセンターの現状と課題について考察し、今後のセンターの発展と学習支援組織としての充実に向けた示唆を得ることが本稿の目的である。

2. 大学におけるピアサポートの現状について

以降の報告に入る前に、本章では、日本学生支援機構が全国 815 校の大学を対象に実施した「大学等における学生支援の取組状況に関する調査³(令和 5 年度)」の結果を参照し、全国の大学におけるピアサポートの取り組みと現状について概観する。

同調査は「大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取り組み状況について調査し、学生支援の現状及びニーズ等を把握することにより、学生支援の充実のための基礎資料を得る」(p.1)ことを目的に、令和 5 年 9 月～10 月にかけて実施されたものである。文書での調査依頼に対してオンライン上で公開された回答票へ回答する形で実施され、うち 794 校からの回答を得ている(回収率 97.4%)。

同調査の結果によれば、ピアサポート等の学生同士で

1 日本学生支援機構の調査では「ピア・サポート」と表記されているが、本稿では「ピアサポート」で統一する

2 2020 年当時の大学名である「徳山大学」から、2022 年 4 月の大学公立化に伴う名称変更で「周南公立大学」となった。

3 日本学生支援機構(2025)「大学等における学生支援の取組状況に関する調査(令和 5 年度(2023 年度)結果報告)」

https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_torikumi/_icsFiles/afieldfile/2025/01/30/1_kekka.pdf

表1 ピアサポート等学生同士で支援する制度の実施について

	令和5年度			(参考)令和3年度		
	実施している	実施していない	無回答	実施している	実施していない	無回答
大学全体	50.9	49.0	0.1	49.6	50.1	0.3
国立	89.5	10.5	0.0	91.9	8.1	0.0
公立	45.9	54.1	0.0	42.3	56.7	1.0
私立	46.2	53.6	0.2	44.9	55.0	0.2
短期大学全体	27.7	71.9	0.3	25.4	74.6	0.0
高等専門学校全体	77.6	22.4	0.0	77.2	22.8	0.0

令和5年度:n=1,144、令和3年度:n=1,162

(引用: 日本学生支援機構 (2025) 「大学等における学生支援の取組状況に関する調査 (令和5年度)」, p.62)

支援を行う制度を実施している大学は、全体のおよそ半数となる50.9%であるという。ただし、この数字を設置者別にみると、国立大学が89.5%と際立って高く、一方で公立大学は45.9%、私立大学では46.2%となっており、その実施割合には大きな差があるといえる(表1)。

次に、その支援領域としては「留学生支援」「授業外での学習サポート」の順に高く、その後「修学相談(履修相談)」「授業内での学習サポート」「障害のある学生への支援」「学生間の仲間づくり」等が続いている(表2)。さらに、上記以外にも就職に関する支援や学生寮内の生活支援等が挙げられていることから、大学における学生支援の一環としての「ピアサポート」には、学習支援のみならず学生間の交流促進やキャリア形成を含む多岐にわたる役割が期待されていることがわかる。

また、これらピアサポートの実施に際しては、「報酬あり」「一部報酬あり」とした大学が全体の70.6%を占めており、有志のボランティアではなく大学公認のアルバイト等の形をとっているケースが多いことがわかる。なお、この数字は令和3年度の前回調査(63.5%)と比較して、約7%の増加にあたる。加えて、こうしたピアサポートの取組

みの今後については、「拡充する予定」を選択した大学が43.1%、「特に変更の予定はない」が56.2%となっており(表3)、「縮小・または廃止する予定」の0.7%を大きく上回っている。このことから、大学の学生支援としてピアサポート体制の構築・整備に力を入れる高等教育機関が増加傾向にあることが窺える。一方、縮小・または廃止と回答した機関の理由は、「別の取組を検討中のため」といったものや、「需要が少ない」「サポーターとして活動する学生が不足している」等が挙がっており、こうした体制整備を進める上では、ピアサポートに参加する学生の確保が特に課題となることが指摘されている(p.163)。

3. ピアサポートセンターの概要と活動報告

3.1 組織概要

では、全国的な動向を踏まえて、本学のピアサポートセンターはどのような理念・形態で運用されているのか。本章では、その制度設計や実際の活動内容について報告をする。

2025年3月現在、本学のピアサポートセンターは、総合教育センターを運営主体として大学図書館内の一室を活動拠点に展開されている。写真1・2は、センターの内観・外観を示したものである。可動式の椅子とテーブル、ホワイトボードが複数設置されているほか、留学生向けの日本語学習教材や教員採用試験を含む各種資格試験対策の書籍等が配架されており、利用者はこれらを自由に利用することができる。本学におけるピアサポートセンターとは、大学HP内⁴にて「飲食やおしゃべりOKで学生同士が学び合ったり、くつろいだりできる空間」「友達同士や先輩後輩、ゼミ仲間などいろいろな関係を深める場として活用」と記載があるように、個人学習に加え、学生による学生相互の学習支援や、多様な交流促進をめ

表2 ピアサポートの具体的な活動について

		(単位:%)									
		授業内での学習サポート	授業外での学習サポート	修学相談(履修相談等)	就職アドバイス	学生寮(寄宿舎)内の生活支援(レジデント・アシスタント等)	障害のある学生への支援	留学生支援	学生生活上の支援(障害学生支援・留学生支援を除く)	学生間の仲間づくり	その他
令和5年度	大学全体	4.6	5.7	4.7	2.6	2.3	4.3	5.9	2.6	4.1	1.6
	国立	5.4	8.4	7.5	3.0	5.2	9.2	11.8	5.8	3.9	2.1
	公立	2.9	9.5	12.4	6.6	4.4	2.9	16.8	5.8	13.1	7.3
	私立	4.5	5.1	3.8	2.3	1.7	3.6	4.4	1.9	3.7	1.3
	短期大学全体	11.4	12.7	11.4	5.7	4.4	11.0	10.1	4.4	10.1	3.1
	高等専門学校全体	3.6	22.9	2.4	2.4	12.0	2.4	20.5	4.2	4.2	0.6

n=3,684

(引用: 日本学生支援機構 (2025) 「大学等における学生支援の取組状況に関する調査 (令和5年度)」, p.63)

4 「ピアサポートセンター落成式およびピアサポートセミナーを行いました」(2020年10月28日) <https://www.shunan-u.ac.jp/news/information/20201104-9562/>

表3 ピアサポートの今後の取り組みについて

		(単位:%)					
令和5年度		拡充する予定	縮小又は廃止する予定			特に変更の予定はない	無回答
	大学全体	43.1	0.7			56.2	0.0
	国立	37.7	2.6			59.7	0.0
	公立	28.9	2.2			68.9	0.0
	私立	46.8	0.0			53.2	0.0
	短期大学全体	39.5	0.0			60.5	0.0
	高等専門学校全体	51.1	0.0			48.9	0.0

n=530

(引用：日本学生支援機構(2025)「大学等における学生支援の取組状況に関する調査(令和5年度)」, p.64)

ざす場という位置づけである。本稿の筆頭著者である山本は、2022年9月より前任の担当教員から引き継ぐ形でセンター運営を担当し、現在で3年目になる。

センターを構成するのは、本学に在籍する有志の学生スタッフ(以下、ピアサポーター)と、総合教育センター所属の担当教員(2024年度は山本・西村の2名)である。センターの開設当初は主に教職員の推薦によってピアサポーターを選抜していたが、現在では年に1度学内全体に公募をかけ、書類審査・面接を経てスタッフ選抜を実施している。なお、ピアサポーターは大学からの雇用となり、その活動時間内においては報酬が発生している。

3.2 センターの運営とピアサポーターの活動

ピアサポーターとしての基本となる活動は、1) 授業外での学習支援(レポート添削・学習相談等)、2) 大学生

活全般に関する相談受付の2点である。センターの利用に際して事前予約などは必要なく、開設時間内であれば学生は自由に訪問・利用することが可能である。ただし、1)・2)ともに課題解決に向けて足掛かりとなる「相談」を行う場所であるというスタンスを取り、学生間での対応が難しい事例については担当教員を通じてしかるべき部署に相談することとなっている。

2024年度は、日本人学生・留学生を含む13名の学部生がピアサポーターとして雇用され、学事暦上の前期・後期の授業期間(それぞれ15週)の平日に活動をしていた。ピアサポートセンターの開設時間は、午前(10:50～12:50)、午後(13:00～16:00)の計5時間であり、各時間帯にそれぞれ2名のピアサポーターがセンター内に常駐し、訪れた学生からの相談を受け付ける形式であった。また、上記の基本活動に加え、センターの利用



写真1 ピアサポートセンターの外観



写真2 ピアサポートセンターの内観

促進を兼ねて月1回程度のイベントを企画・実施するほか、教職員からの依頼・要望を受けて学内で企画された各種行事等への協力を行うこともあった。

上記の基本活動やイベントの企画・実施は、基本的に全てピアサポーターによる話し合いによってその方針・内容が協議される。そのために隔週で30分～45分程度のミーティングを開催し、活動報告やイベントのアイデア出し、活動上の気づきや課題の共有等を行っている。なお、その場には担当教員も可能な範囲で同席しているが、議事の整理進行や学生の提案に対する客観的な観点からのアドバイス等に留め、学生の主体的参加と意思決定を尊重していた。

3.3 2024年度の活動報告

以下の表4は、2024年度のピアサポートセンターの利用人数と活動内容についてまとめたものである。

今年度は、ゼミ利用やイベント参加も含め、延べ約550名⁵の学生や教職員がセンターを訪問・利用していた。利用時期⁶としては、センターの認知向上と利用促進を目的とした各種イベントを実施していた5月～7月が多く、10月以降は徐々に減少傾向にあった。また、学年別では3年生～4年生の上級学年での利用者が多く、就職活動や各種試験対策のためにセンターを利用しているという回答が目立っていた。

上記表4に記載したイベントのうち、特に盛況だったのは5月の異文化交流会、6月のバトミントン大会である。前者は、学内に出身留学生の多い韓国・ベトナム・中国・台湾を取り上げ、その国のお茶やお菓子を楽しみながら、

学生間の交流と異文化理解を深めようとしたものである。また、後者はこれまでも開催して好評だったスポーツ交流の一環として企画されたものである。いずれも多く、学生が参加し盛況であったといえるが、実施時間の関係で特定の学年・学部に参加者が集中してしまったこと、広報が行き届かずイベントの周知が遅れてしまったこと等が課題として残された。

また、3.2で述べた通り、上記イベントには教職員からの依頼・要望に基づき実施されたものも含まれている。それが、7月のSDGs理解促進イベント、10月の哲学カフェ、12月の教職イベントである。中でも、7月のSDGs理解促進イベントは、本学国際交流センター担当職員が企画し、山口県JICAデスクや市内コーヒESHOPからの協力を得て、学生のみならず教職員も参加する形で実施された⁷ものである。このように、学生相互の学習支援に留まらず、広く大学全体の交流や異文化理解の促進に向けたイベントの企画・運営を行う点、そして、必要に応じて柔軟に教職員との連携・協力を行う点が、本学ピアサポートセンターの特徴でもあるといえる。

4. ピアサポートセンターの今後の課題

本稿では、大学の学生支援におけるピアサポート制度の現状を踏まえ、本学のピアサポートセンターの活動について報告してきた。最後に、現在のセンターの課題と今後の展望について述べる。

本学におけるピアサポートセンターの課題は、利用者数の拡大とピアサポーターの養成の2点である。3.3で述べた通り、2024年度は特にイベントやゼミ単位での利

表4 2024年度のピアサポートセンター利用者と活動内容のまとめ

時期 (延べ利用者数)	主な活動
4月(44名)	履修相談 1年生対象図書館ツアー内でのピアサポ活動紹介
5月(81名)	異文化交流会
6月(75名)	学内交流バトミントン大会 インターンシップ報告レポート添削
7月(141名)	山口県内の夏祭り紹介イベント SDGs理解促進イベント(コーヒーイベント) 期末試験に関する相談受付
10月(64名)	哲学カフェ
11月(59名)	次年度スタッフ募集説明会
12月(41名)	教職イベント(教職課程学生による模擬授業見学会)
1月(39名)	次年度スタッフ面接

5 センターの利用に際しては、ピアサポーターが利用者の学部・学年を口頭で確認し、利用者記録を作成していた。

6 大学が長期休暇に入る8～9月、2～3月を除いた。ただし、過去にはこの時期に全学的なインターンシップのレポート添削などを行うことがあり、その場合は授業期間内と同じく報酬が発生する形で特別に活動を行っていた。

7 ピアサポーターは、事前・当日の会場準備や運営補助等で協力参加した。



写真3 バドミントンイベント(6月)の様子



写真4 SDGs 理解促進イベント(7月)の様子

用を通じて、前期は利用者の増加が目立っていたが、後期には1日通して利用者がいない日も多くあった。大学のピアサポート制度に関しては、他大学の事例においても利用者の少なさや相談のハードルの高さが課題として指摘されているが(例えば、近藤ほか2014, 米谷・山内2020, 古川2023)、年間を通して十分にセンターが活用されるよう、何らかの工夫が必要であると考えられる。

また、ピアサポートセンターの更なる利活用を考える上では、ピアサポーターの養成も重要な課題である。古川(2023)は、大学で実施されているピアサポーター養成の取り組みをまとめ、そのパターンを「①ピアサポート活動について学ぶ正課の授業を開講し、その受講終了者をピアサポーターとするもの、②ピアサポーターとして活動することを希望する学生を募り、研修を受講してもらいピアサポーターとして認定するもの、③この両者を組み合わせるもの」(p.24)の3つに分類している。古川の分類に従えば、本学の対応は②に該当する。本学の場合、12月～1月の次年度スタッフ募集を経て新たにピアサポーターとなった学生は、4月の新学期開始前に行われる1時間程度のミーティングに参加し、先輩サポーターから業務に関する基本的なレクチャーを受ける。しかしそれ以外には、例えば全学的な必修科目に関するレポート添削等の研修を除き、基本的には同じ時間帯に入ったピアサポーターと共に基本業務を行いながら、センターの仕組みや学生対応を学んでいくこととなる。しかし、多様な背景を持つ学生への対応や、専門的な内容を含む学習課題の解決等を考えた場合は、今後はより専門性の高い養成・研修のあり方を検討していく必要があると考

えられる。

最後に、沖(2017)は大学におけるピアサポートプログラムの発展に関して、学生参画(student engagement)および、支援する/される側の双方の成長という観点から運営方針を考えることの重要性を指摘している。本稿では、紙幅の関係もありピアサポートをめぐる全国的な動向の確認と本学における取り組みの報告に留まったが、今後はピアサポーターの声を踏まえつつ、学生支援環境の充実に向けて更なる調査・分析を進めていきたい。

引用文献

- 沖裕貴 (2017) 「立命館大学のピア・サポート・プログラム—その特徴と課題、今後の展望—」『立命館高等教育研究』(16), p.1-17, 立命館大学教育開発推進機構
- 近藤清之・手呂内秀則・土屋貴之・市川さやか・安納隆介・矢野智樹・木原章 (2014) 「法政大学におけるピア・サポーターとしての学生スタッフ育成の現状と課題」『法政大学教育研究』(5), p.15-38, 法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター
- 日本学生支援機構 (2009) 「大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査について」調査報告
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_torikumi/_icsFiles/afieldfile/2021/03/12/outline_1.pdf
- 日本学生支援機構 (2025) 「大学等における学生支援の取組状況に関する調査(令和5年度(2023年度)結果報告)」
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_torikumi/_icsFiles/afieldfile/2025/01/30/1_kekka.pdf
- 古川裕之 (2023) 「京都大学におけるピアサポート活動の導入とその意義」『京都大学学生総合支援機構紀要』(3), p.19-29, 京都大学学生総合支援機構
- 米谷淳・山内乾史 (2020) 「ピアサポートと学習支援—1. 北海道大学と東北大学での面接調査をもとに—」『大学教育研究』(28), p.87-100, 神戸大学大学教育推進機構